

風力発電タワー専用工場完成

いわきの会川鉄工 四倉工業団地に国内初



完成した工場前でテープカットに臨む関係者

いわき市の会川鉄工が、いわき四倉中核工業団地に整備していた風力発電タワーを製造する工場が完成した。国内で初めて専用工場で、十二日に現地で行った。

敷地約二万八千平方メートルに風力発電設備の支柱部分の部品を造る

製缶工場と部品の組立工場を設けた。両工場合わせた延べ床面積は二千二百八十平方メートル。津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金を活用し、総工費約十億円をかけた。従業員十五人を新たに雇った。

式には約百四十人が出席した。神事後、

テープカットで完成を祝った。披露宴で会川文雄社長があいさつし、安達和久県商工労働部理事、鈴木典弘副市長らが祝辞を述べた。会川社長は「多くの人の助けてで第一歩を踏み出した。生み出す製品を福島復興につなげていきたい」と語った。

会川鉄工は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後、再生可能エネルギー関連事業に力を入れている。二

〇一六(平成二十八)年に福島民報社の「第一回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)」の特賞を受けた。